

みずくらいど

校長 加藤雅弘

誹謗中傷（ひぼうちゅうしょう）だけでなく詮索（せんさく）も人災

猛威を振るう新型コロナウイルス。首都圏にも変異株が広がり、再度の緊急事態宣言も発出される可能性が高まってきました。これまでもスペイン風邪やペストなど人類は感染症と戦い続けてきました。時間軸を広く持てば、今回も新たなことではなく、長い歴史の1ページであることが分かります。さらに広く見れば地震や台風など同類の自然災害と見ることもできます。

しかし、コロナ感染者や医療従事者への誹謗中傷は完全に人災です。蔓延しているウイルスを完全にシャットアウトすることは不可能で、通常の生活をしていてもどこで感染してしまうか分かりません。感染した人を非難することはできないのです。そもそも非難している人自身が既に感染していることも十分に考えられます。一年ほど前、イタリアが感染爆発していた時の報道で忘れられないシーンがあります。陽性者が回復して住んでいるアパートに帰ってきたときのものです。車から降りた患者にアパート中の住民が窓から歓迎の意を表していたのです。患者も手を振って応えていました。これこそあるべき姿だと感じた次第です。前述しましたように、この戦いは「人類」VS「ウイルス」です。味方である人類同士が仲間割れをしていて勝てるわけではないと思うのです。

今後、首都圏でも変異株の感染が拡大するのは間違いありません。本校の関係者も該当することになるでしょう。その時、誹謗中傷はもとより「誰なのか」という詮索も行ってしまうかもしれません。その言動自体が、誹謗中傷に、そしていじめにつながります。どうか、このことはご家族全員で、話し合い共有しておいていただきますよう、ぜひともお願い申し上げます。

コロナ禍における教育活動について

保護者会アンケートへのご協力、ありがとうございます。昨日までの回収数は115。多数の方々から回答とともにご意見ご感想もいただきました。心より感謝申し上げます。その中に、行事が縮小されることについて懸念されるご意見もありました。そのことについて、学校の方針を述べさせていただきます。

休校の可能性をできる限り下げることと、その条件下で最大限に有効な教育活動を展開していくことが基本です。一例を挙げますとクラブ活動です。私は、変異株が若年層にどの程度感染力が強いのかを見極められるまでクラブ活動は中止でよいと考えていました。しかし、本校において新クラブ設立の際、児童の主体的な取り組みによって実現するという経緯を聞いて、6年生だけ実施と変更しました。これはまさに「実社会に生きて働く学び」になっているからです。しかし、陽性者出た場合、4～6年生全てが休校になってしまうリスクは避けたいことから、最終学年である6年生のみという判断をいたしました。

これからも前例にとらわれず、不明のことについては見極めができるまではリスクを最小限にするという対応を進めて参ります。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。